

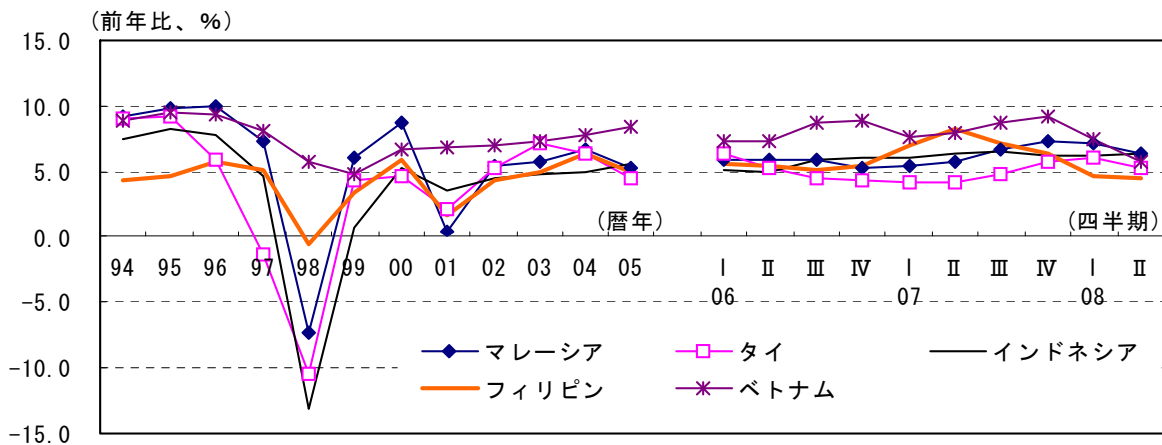
## アセアン5カ国の資源・食糧問題

～インフレリスクは高水準～

### 1. 概況

アセアンでシンガポールに次ぎ発展している5カ国（マレーシア・タイ・インドネシア・フィリピン・ベトナム）は、大国の中国・インドほど脚光を浴びていないが、わが国にとっては重要な位置を占めている。アセアン5カ国は1997年の通貨危機後に再び経済成長を遂げたものの、昨年来の燃料高・食糧高を受けて貧困層が生活苦に陥っており、政情が不安定さを増している。

図表1 実質 GDP 成長率推移



図表2 概況と最近の政治・経済・社会情勢

	面積 (万 km <sup>2</sup> )	人口 2007 (百万人)	名目 GDP 2007 (億ドル)	一人当たり GDP 2007 (百ドル)	CPI 上昇率 前年比 最近月 (%)	失業率 最近月 (%)
マレーシア	33	27	1,872	69	8.5	3.6
タイ	51	65	2,455	39	6.4	1.5
インドネシア	192	235	4,329	19	11.8	8.5
フィリピン	30	87	1,442	17	12.2	8.0
ベトナム	33	86	609	8	28.3	4.5

- [マレーシア] CPIは26年ぶりの高水準も、景気減速のおそれから利上げせず。与党が3月の選挙で惨敗、アブドラ政権不安定化。ヘナンモルール計画など大型プロジェクト延期
- [タイ] CPIは過去10年で最高水準。最低賃金引上げや燃料税引下げで対応、8月に漸く利上げ実施。タクシン派のサムク政権不安定化。6月より反政府デモ、8月タクシン元首相亡命、9月非常事態宣言、ソムチャイ新首相選出
- [インドネシア] 金融・財政の引締めで金利と石油製品価格引き上げ。金融政策が後手に回り食糧物価が上昇し低所得者層への影響大。燃料高への抗議デモ続発。2009年に総選挙・大統領選予定
- [フィリピン] 米国依存度高く減速懸念。食糧高・ハリ安による物価高で金融引締めへ転換。財政難から貧困救済には最低賃金引上げで対処。4月に米騒動、6月にガソリン高抗議デモ
- [ベトナム] チャイナ+1として直接投資流入も、インフラ・裾野産業は未熟。貿易赤字でトン安進行。株価は年初来6割下落。インフレはアセアン中最悪、中銀の対応は遅れたが金融引締め、不動産融資規制、公共料金・生活必需品価格統制を実施。食糧・燃料高で不満続出

(備考) 1. 各種統計・各種報道より 2. この他ラオス・カンボジアの一人当たりGDPは5百ドル、ミャンマーは2百ドル

## 2. 資源エネルギー関連

アセアン5カ国は資源産出国ではあるがエネルギー効率は低く、製油能力不足で輸入依存の国もあり、国際市況高騰の影響を受けている。経済成長支援と社会保障のため統制してきた石油製品価格を、各国政府は財政負担増から引上げており、これが国民生活を圧迫している。

図表3 主な産出資源

マレーシア	原油(確認埋蔵量 54 億 b、可採 19 年)、天然ガス(埋蔵量 2.5 兆 m <sup>3</sup> 、可採 41 年)、錫(生産世界8位)。国営石油公社ペトロナスが石油探査・生産・精製・石油化学を独占
タイ	原油(埋蔵量5億b、可採4年)、天然ガス(埋蔵量 0.3 兆 m <sup>3</sup> 、可採 13 年)、錫、鉛、亜鉛、石膏、螢石、タンクステン、アンチモン
インドネシア	原油(埋蔵量 44 億 b、可採 12 年)、天然ガス(埋蔵量 3.0 兆 m <sup>3</sup> 、可採 45 年)、石炭(生産世界7位、輸出2位)、金、銅、錫、ニッケル、ホークサイト。国内精製能力不足で石油・同製品の輸入増、2004 年に石油純輸入国へ。アルン/ホンタンガス田は減衰。国営石油ガス公社フルタナが探鉱・開発・生産
フィリピン	銅、金、銀、ニッケル、クロム
ベトナム	原油(埋蔵量 34 億 b、可採 28 年)、天然ガス(埋蔵量 0.2 兆 m <sup>3</sup> 、可採 29 年)、石炭(無煙炭輸出世界1位)、鉄、錫、燐、ホークサイト、タンクステン、レアース。油田開発活発だが製油所なく、スックワット/キーン製油所建設中)。国営石油会社ペトロベトナムがエネルギー産業独占

[ラオス] 石炭、亜鉛、金、銅、ホークサイト、レアースなど(水力発電をタイに売電)

[カンボジア] 原油、天然ガス、ホークサイトなど

[ミャンマー] 原油、天然ガス(埋蔵量 0.6 兆 m<sup>3</sup>、可採 41 年、タイに輸出)、石炭、金、銀、銅、錫、鉛、亜鉛、マンガン、タンクステン、石灰岩、大理石、宝石(翡翠、ルビー、サファイア、ダイヤモンド)など

(備考) BP 統計、各種資料より

図表4 資源エネルギーをめぐる最近の動き

マレーシア	6月に燃料価格統制撤廃、石油製品と電力値上げ、同時に漁民・船舶業者に補助、二輪・小型四輪保有者に現金支給。7月に原油価格低下を受け石油製品値下げ。
タイ	2005年に燃料価格統制撤廃。8月に燃料減税、光熱水道・バス料金減額。バイオ燃料利用促進
インドネシア	政府が燃料価格統制。5月に石油製品価格引上げ、同時に貧困世帯に現金支給。石油製品補助金が依然財政支出の3分の1を占め財政逼迫
フィリピン	6月に公共交通運賃引き上げ
ベトナム	政府が燃料価格統制。2月に石油製品価格引上げ、7月再値上げ、8月値下げ。9月石油製品市場価格制に全面移行

(備考) 各種報道より

### 3. 食糧関連

アセアン5カ国は農産地帯でもあるが、原油高で運営コストが増大している。食糧高は家計を困窮させ、社会不安が顕在化するなか、一部では輸出規制も行われている。アセアン5カ国の貧困割合は高く、食糧不足で貧困層が困窮している。

図表 5 主な食糧品目

マレーシア	米、パーム油(生産世界1位)、野菜、果実、茶、カカオ
タイ	米(生産世界5位、輸出1位)、トウモロコシ、イモ、サウキビ、エビ、マグロ、イワシ
インドネシア	パーム油(生産世界2位)、米、トウモロコシ、イモ、大豆、サウキビ、ピーナッツ、コーヒー、カカオ
フィリピン	米、トウモロコシ、イモ、サウキビ、コナツ、バナナ、パイナップル、マンゴー、エビ、マグロ、カツオ、肉類
ベトナム	米(輸出世界2位)、トウモロコシ、イモ、豆類、ナッツ類、サウキビ、コナツ、コーヒー(輸出世界2位)、茶、胡椒、魚介類

(備考) 各種資料より

図表 6 食糧をめぐる最近の動き

マレーシア	食糧自給率低く、穀物高騰で食品価格上昇
タイ	米の在庫減で輸出価格上昇
インドネシア	世界最大の米消費国・輸入国で米価高騰の影響大。米輸出を禁止。1月に大豆高騰に抗議する食品製造業者デモ。6-12月低所得世帯に約1千円/月を現金支給
フィリピン	米生産は不安定で輸入依存。食品価格上昇の影響大
ベトナム	米輸出を一時禁止、その後も新規輸出契約停止。北部は豊作も、中部は干ばつ、南部はウカ被害拡大。豚青耳病流行のおそれも

(備考) 1. 各種報道より 2. このほかボツニアも米輸出を一時禁止

図表 7 貧困と格差の状況

	マレーシア	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	ラオス	カンボジア	ミャンマー	中国
\$2/日(PPP)未満の人口割合(%)	10	26	40	45	43	74	62	NA	38
食糧摂取必要量未満の人口割合(%)	3	21	6	19	17	21	33	5	12
5歳未満の体重過少児割合(%)	11	18	28	28	25	40	45	32	7
ジニ係数	0.40	0.42	0.40	0.44	0.37	0.35	0.38	NA	0.47

(備考) 1. Asian Development Bank より 2. 各最新年 ジニ係数は0に近づくほど格差小

#### 4. 今後の展望

一部では通貨危機再来も示唆されているが、各国は従来よりも弾力的な為替相場制に移行しており、チェンマイニシアティブ（緊急時の外貨相互融通）の枠組みもできている。IMFによれば燃料・食糧価格が2割上昇しても、各国の外貨準備は目安とされる輸入3ヵ月分を概ね超えているが、ベトナムはカバーできておらず、今後対内直接投資などの資金流入が鈍化すれば懸念材料となる。

IMFのアジアCPI見通しは2008年9.1%、2009年7.4%と高水準である。アセアン5カ国では人口増などにより今後も経済成長が見込まれるが、インフレが消費や投資を減退させれば成長鈍化の可能性もある。

アセアン5カ国と日本は加工組立型製造業の域内分業などで関係が強い。インフレが賃金などに及べばたとえ商品価格が下落しても日系企業の収益に影響してくる。タイやベトナムでは既に賃金上昇圧力が強く、今後の動向には注意を要する。

図表 8 燃料・食料価格が20%上昇した場合の影響試算(2007→2009)

	マレーシア	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム
外貨準備高/輸入月額(ヵ月)	7.8→8.0	5.8→5.1	6.0→5.4	5.2→4.4	2.3→2.6

- (備考) 1. IMF “Food and Fuel Prices” 2008 より  
 2. 2007年から2009年にかけて原油(\$95/b→\$116/b)・食糧価格が20%上昇した場合の影響。輸入増加分を外貨準備で賄ったと仮定し試算  
 3. このほかカンボジアは2.9→2.2に悪化(ラオス・ミャンマーはNA)  
 4. 外貨準備高はマレーシア4千億ドル、タイ1千億ドル、インドネシア6百億ドル、フィリピン4百億ドル、ベトナム2百億ドル

図表 9 経済成長見通し(2007→2050の長期予測、年率)

	ベトナム	インド	フィリピン	中国	インドネシア	マレーシア	タイ	G 7
実質 GDP 成長率(%)	9.8	8.5	7.2	6.8	6.7	5.8	5.7	2.0
同 世界 順位	1	2	4	7	8	10	11	-
人口増加率 (%)	0.8	0.8	1.1	0.1	0.6	1.0	0.1	0.3

- (備考) 1. PricewaterhouseCoopers “The World in 2050: Beyond the BRICs: A broader look at emerging market growth prospects” 2008 より  
 2. 国連人口予測などに基づく推計  
 3. 3位ナイジェリア、5位エジプト、6位バングラデシュ、9位パキスタン、ブラジル13位、ロシア19位  
 4. IMFはアセアン5(含シンガポール、除ベトナム)の成長率を08年5.6%、09年5.9%と予想

図表 10 各国の平均賃金月額(2006/4→2007/4 対前年上昇率)

(万円、%)

	マレーシア	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム	中国
管理職	13.2 (5.6)	12.8 (12.0)	5.2 (8.9)	10.1 (8.0)	5.9 (15.5)	7.8 (16.5)
ワーカー	4.0 (5.0)	3.5 (12.0)	1.8 (8.2)	3.0 (6.6)	1.2 (15.2)	2.5 (16.9)

- (備考) 1. 中小公庫「アセアン・中国進出中小企業の現地法人実態調査」2008より 2. 年1回のアンケート調査(回答481社)

図表 11 各国価格付け

	マレーシア	タイ	インドネシア	フィリピン	ベトナム
S & P	A-	BBB+	BB-	BB-	BB
ムーディーズ	A3	Baa1	Ba3	B1	Ba3

- (備考) 1. “International Financing Review” 2008より 2. カンボジアはB+・B2、ラオス・ミャンマーはNA

[調査部(経済調査担当) 小森 正彦]

お問い合わせ先 株式会社日本政策投資銀行 調査部

Tel: 03-3244-1840

E-mail: report@dbj.jp